

# 市議会だより

『春号』Vol.31

三郷市議会議員  
えい いずみ  
**加藤 英泉**

所属会派：21世紀クラブ



笑顔あふれる  
ふるさと三郷

皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。これまでの経験と新たな発想で議会活動に真摯に取り組んで参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。目指すは『笑顔あふれるふるさと三郷』。住み続けたいま

ちに、さらに前進。

■議会所属委員会

①議会運営委員会

②三郷中央地区周辺対策特別委員会

③文教経済常任委員会

④三郷インターチェンジ周辺対策特別委員会委員長

## 《令和5年(2023)3月 定例議会報告》

会期:2月27日~3月17日

●3月議会は22議案が審議され全議案とも可決。また、3月議会は予算議会で、一般会計予算は16年連続の増額で、過去最高の561億円を計上、前年比1.6%=9億円の増額となりました。歳入

では個人・法人市民税、固定資産税・都市計画税の市税が前年比3.5%=約7億6千万円の増収が見込まれ、歳入全体の39.7%を占めます。

●「学校給食無償化」の請願が政志会・公明党の反対で不採択に。

三郷市では、国のコロナ対策予算を活用して、3月まで「学校給食費を無償化」してきましたが、これを更に継続して欲しいとする「学校給食費の無償化継続に関する請願」が出されました。請願は私が所属する文教経済常任委員会では賛成多数で可決され、また、21世紀クラブの渡邊議員も一般質問でも取り上げ、市長に学校給食費の無償化を迫りました。その費用は年間8億円余りとのことですが、本会議においては、我々21世紀クラブは賛成でしたが、政志会は反対討論をも行い、公明党とともに反対し、11対12で不採択となりました。

ホームページにおいては一般質問及びその答弁を全文掲載しています。

### ① 保育問題

#### (1).幼児教室「風の子園」の再生について

令和5年度の予算には、学童保育待機児童解消のために、最大200人の学童収容の施設整備費も予算化されており、また、三郷3丁目には90人収容の保育施設整備が計画され、補助額も予算化されました。しかしながら、盛況のうちに運営されていて、障害の有無にかかわらず同じ教室で保育・教育する「イ

ンクルーシブ教育」というこれからの保育・教育のあり方を先取りした多様性のある幼児教室「風の子園」を令和7年度で閉園するということが先の2回の質問では全く同様の答弁がありました。

誰一人取り残さない社会の形成が問われている中、社会の変化に的確に対応していく施

策の展開、切れ目のない子育て支援の強化を市長自ら謳う中での「閉園」という判断に違和感を覚えますし、閉園されることに三郷市民の皆さんが微笑むでしょうか。

市民目線、市民感覚、市民本位の行政といながらも、行政の視点・観点にズレが生じてしまっているのではないのでしょうか。三郷市の沽券に関わることだと思いますので、頑なにならず、改めて柔軟なご判断を再度求めたいと思います。

**市長答弁** ご質問の幼児教室「風の子園」につきましては、昭和50年代における本市の人口急増期に幼稚園待機児童の解消を目的として開設した幼稚園類似施設でございます。令和4年12月の市議会定例会におきましても答弁いたしました。開設当初の幼稚園不足につきましては現在、改善され、幼稚園の待機児童も解消されており、市として多額の公費を投じて「風の子園」の建て替えや大規模修繕、移転建設を行うことにつきましては、困難であると考えております。現在、市内では多くの民間事業者が、それぞれ特徴のある幼児教育や保育事業を運営しており、風の子園の内部におきましても、民営化による自立に向けた協議が進められていると聞き及んでおります。今後におきましても、多くの民間事業者とも連携を図りながら、「質の高い教育と切れ目のない子育て支援の強化」を推進してまいります。

**所感** 風の子園のインクルーシブ教育は流山市に先んじて、そして三郷市が他自治体に唯一誇れる特徴ある幼児教室である。誰一人取り残さないと言いながらもSDGsにも反して「閉園」という市民感情を逆なでする市の判断に対し、起死回生を図るため3回目の質問をしたが、市長と執行部の答弁は3回とも同じ作文を読み返す（それも、棒読み）の繰り返し。また、確たる理由説明も全くなく、「困難」というおおよそ行政とは思えない進歩のない無策とも思える答弁。その証左に、「多額の公費を投じてとあるが、その多額の公

費を市長はいくらと認識されておられるか」という私の再質問に、市長、副市長、部長の3者が〇首揃えて書類を漁り、話をしていたが、結局答弁できず、議会後も報告は一切なし。それもそのはず、風の子園の建て替えや大規模修繕などの見積りは正式なものではなく、大和ハウスの見積りだと言うが、おおよそ行政とは思えぬ「手書きの（敢えて高い？）見積り」を風の子園側に提示したお粗末さで、悪い言葉で言えば、風の子園を欺くためのようなもので、執行部までに届けられるような見積書は最初からないのではないか。こんなことが行政の中間層で勝手に行われ、それもチェックされず、それを上司は鵜呑みにし、トップの誤った判断が導き出されていること自体に組織の欠陥や腐敗があるのではないか。そして、「自立に向けた協議が進められている」というが、市側から逃げ道がないほど追い込まれてきてしまっている状況の中、子どもたちの将来のためにとの一心で、仕方なく職員が皆で模索している状況を「協議が進められている」と勝手に他人事のように市長も仰っているが、放りっぱなしにしておいて全く失礼な話。三郷市は保育所関係予算に、民間保育所等運営支援事業として30億円余り、認定こども園運営改善費等支援事業として10億円余り、子育てのための施設等利用給付事業として5億2千万円、保育所等整備推進事業として5千万円余り等々、保育所費として約57億6千万円を予算計上しており、公立保育所6施設595人、市立保育所17施設1660人、認定こども園5施設492人、小規模保育園7施設133人の合計35施設、定員2880人となっているが、保育所費57億円を定員2880人で割ると子ども一人当たり年間200万円が投入される計算となる。それこそ補助金として有り余るほどの多額の公金が毎年投入されている。風の子園は小規模だが保育・教育が50年に亘り立派に行われ、存在感を失うどころか、逆に増してきており、三郷市のために貢献してきている「風



の子園」の子どもたちを「誰一人取り残さない」という言葉通り、市長は逃げずに風の子園の関係者と正面に向きあって、市長自らが実践されることが行政の役目であり使命であると思う。建設費を考えると、現在、幸房小の校舎内5室で行われている児童クラブが来年度は満室となるため、幸房小から5分の場所に新たな児童クラブとして、児童214名と職員20名収容の建物（6室）の建設が計

画され、児童施設整備工事費として5年度予算に1億2千万円が計上されている。この予算を参考にした場合、収容人員50名程度の幼児教室であれば市長が言う多額の公費でもなく、割り戻しがなければ1億円未満で立派な建物が建てられるはずで、1回限りの建設工事の出費である。再考いただきたいと節に願う。

## ② 不登校問題

不登校の小中学生はコロナ感染拡大と時を同じくして全国で急増し、小中学生は2021年度に過去最多の24万4940人となり、10年前から倍増し、前年度からは4万8813人（24.9%）増え、全国の児童・生徒に占める割合も2.6%となっており、9年連続で増加しています。10年前と比較しても小学校で3.6倍と若年化しており、中学校においては1.7倍となっています。また、2月22日の衆議院予算委員会において文科大臣は不登校人数を問われ、2022年度も24万5000人であったと答弁しています。

三郷市として、不登校の児童生徒を一人でも多く、それも早期に学校に復帰して貰う或いは将来の自立を目指して貰う取り組みがどのように行われているのかをお聞きします。

### ア. 小中学校の不登校の状況について

21年度の全国の小学生の不登校は前年度比で28.65%増加し、小学生の1学年に約1.3人は不登校という状態です。中学生の不登校は前年度比で23.1%増加し、1クラスに約1.4人が不登校という状態です。市内の小中学生の不登校の状況はどうなのか。

**教育長答弁** 不登校の件数は、国の傾向と同様に、本市の小中学生においても増加傾向です。

### イ. 不登校が増える原因や背景について

学校は学力などを伸ばす以外に協調性を身につける役割を担っていますが、不登校が増え続ける状況や背景として、「勉強について

行けない」、「友達とあまり気が合わない」等、不登校のきっかけは多様ですが、不登校が増加している原因や背景についてお尋ねします。

**教育長答弁** 本市の不登校の要因は、「無気力、不安」が最も多く、次いで「学業不振」となっており、本人の成育歴や家庭環境等を含め、様々なものが複合的に絡んでおります。

### ウ. 不登校の保護者へのアンケート調査について

不登校だった子どもの保護者に行ったアンケート調査では、学校に相談しても助けにならなかったと感じた保護者が6割で、また、学校の担任に相談したうちの58.4%、学年主任や校長・教頭に相談したうちの57.9%が「助けにならなかった」と回答しています。不登校の原因について保護者は、

- ①原因が自分にあるかもしれないなどと「自分を責めた」が64.9%。
- ②「子育てに自信がなくなった」が53.7%。
- ③「孤独感、孤立感を味わった」が42.5%。
- ④「落ち込んだ。消えてしまいたいと思った」が45.2%と、このようにケアは家庭が背負ってしまっています。

保護者の学校への不信と自信の喪失感が窺えると思いますが、このアンケート結果について、どのようにお感じになるかお伺いします。

**教育長答弁** 本市の学校でも、一部ご意見をいただくことがございますが、各校が、校長のリーダーシップにより、不登校児童生徒

一人一人や、保護者に寄り添って組織的対応をしているところがございます。

## エ. 不登校に対する取組について

市の現状はどうか。それぞれお聞きいたします。

**教育長答弁** ①中学校配置のさわやか相談員は、必要に応じて小学校に派遣するなど、連携をしております。

②「野のさと」「みずぬま」の通室生は、年度により増減がありますが、30名程度登録しており、通室による学校復帰や改善に向けた児童生徒は7割程度おります。

③長欠状況報告は毎月、学校から報告を受けておりますが、必要に応じて、報告を求める場合もあります。

④親の会につきましては、本市でも、教育相談室において、「不登校を考える親の会」を開催しており、元大学教授の臨床心理士を招聘し、保護者同士の交流や個別相談を行い、不安、悩みの解消に努めております。

⑤教育コンサルテーションは、本市では、小学校段階での不登校対策として、臨床心理士を派遣し、専門的な立場から教職員へ指導・助言をいただく機会を設けております。

⑥教職員への研修につきましては、本市の生徒指導・教育相談中級研修会をはじめ、県主催の研修会への参加を呼びかけるとともに、オンライン等を活用した教育委員会主催の研修会を実施しております。

## オ. フリースクールへの支援と助成について

**教育長答弁** 教育委員会では市内2か所の適応指導教室において、個に応じた学習等の支援をしております。フリースクールに通学し

ている児童生徒も数名おりますが、フリースクールへの支援と助成につきましては、先行実施の自治体の実践を、調査研究してまいります。

## カ. 新たな教育方針について

新たな教育方針を示し、三郷市の魅力として独自の考えを実行しても良いのではないかと。

**教育長答弁** 各学校では、不登校児童生徒やその保護者に寄り添い、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー等の協力も得ながら、家庭訪問や面談などを行い、情報共有と支援策を協議するケース会議など、早期対応に努めております。今後は、次年度から拡充する専任教育相談員も定期的に学校に訪問指導するなど、さらに相談体制を強化してまいります。

## キ. 特筆する不登校への取組、成果、課題について

今まで不登校対策にどのように取組み、学校への早期復帰や自立に結びついたとかの成果、或いは、学校への復帰や自立への課題について具体的なものをお尋ねいたします。

**教育長答弁** 昨年、適応指導教室「みずぬま」の卒業生による同窓会での声を紹介させていただきました。「みずぬまは最後の砦だった」「みずぬまは自分を受け入れてくれた場所」「みずぬまは学校に行けるようになるステップ」。これらの声は、成果の表れであると認識しております。今後も、不登校児童生徒やその保護者に寄り添いながら、全ての児童生徒が、自立的に生きる力や社会を担うための資質を身につけることができるよう、夢を育む教育を推進してまいります。

# コロナ禍終息をお祈りします。

## 加藤英泉後援会



HP <https://eiizumi.com/> E-mail [ktt@ceres.ocn.ne.jp](mailto:ktt@ceres.ocn.ne.jp)

〒341-0024 三郷市三郷2-1-9 TEL048-957-0962 FAX048-957-0966